

# 日 本 ボ ス ト ン 会 会 報

発行所 日本ボストン会事務局

## ご 挨拶

### 会長 長島 雅則

早いもので、会長に就任させていただいてから、数ヶ月が過ぎました。会としては、分科会での活動が積極的に行われており、特に分科会のリーダーの方々のご尽力には感謝しております。

私としては、会長の任を果たすべく、6月6日の The Japan Society of Boston の Annual Dinner に出席致しました。

丁度、その日は、MIT Alumni Association の Board and MIT Corporation Dinner が重なって催されましたが、こちらの方は、恒例の Boston Pops Concert のプログラムが後にありましたので、夕刻でも早めに開催されました。そのお陰で Annual Dinner には、少々遅れただけで、参加することが出来ました。

今回の Annual Dinner には、個人的にも是非参加したいと考えておりました。それは、友人の伊藤籬一 (Joi Ito) 氏が、Distinguished Leadership Award を受賞されると聞いていたからです。彼は、2011年に MIT Media Lab の所長に就任しました。彼を選んだ責任者は Nicholas Negroponte 教授で、そのことを発表される前日 (2011年4月24日) に以下のメールを私に送ってくれました。丁度、私は、4月初旬に MIT を訪れていたタイミングでもありました。ここに、そのメールの全文を掲載させていただきます。

Mas,

It was wonderful having you and Yoshiko at the Media Lab. You make me very proud of having: known you, followed you work and had a small influence on it.

I walk by the Nagashima room daily and think about you.

On Monday night we will announce the new Director of the Media Lab. Excuse me for not leaking it. We are trying to keep the press value in tact, as it is a very BOLD choice, one that you will like for several reasons, professional and personal.

Happy Easter,

Nicholas

記者発表の前日のメールでしたので、伊藤さんの名前は伏せていましたが、このニュースを早く知らせたくて仕方がない

Negroponte 教授の様子がうかがえます。この中で BOLD choice と言っているのは、伊藤さんが大学を中退して、

Non-degree holder であったためです。そのような人を MIT が研究所の所長に採用したということは、伊藤さんの力量が卓越していることの証左であると思います。そして、2年後の今、The Japan Society of Boston で表彰されることになったのも大いに納得できることだと思います。尚、伊藤さんは今年 Doctor of Literature を授与されましたので、今は歴とした Degree holder です。

この会の大きなトピックは、やはり、2000年からこの会の President を務められた、Peter M. Grilli 氏がその任から引退されたことだと思います。大きな賞賛と共に感謝状が授与されました。私は、Grilli 氏とは、日本で一度しかお会いしたことがありませんでした。当会の何人かの方々から、よろしくお伝え下さいというメッセージをいただいておりますので、お伝えしました。大変、喜んでいただいたと思います。

The Japan Society of Boston は、1904年に創立されてから109年になり、50以上はある日米の親睦団体の中で一番古く創設されたものです。そして、私が出席させていただいた Annual Dinner は盛大なもので、300名ぐらいは参加されていたと思います。

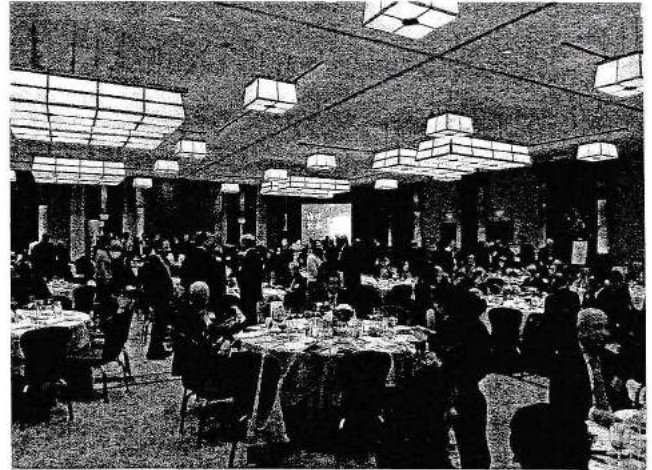
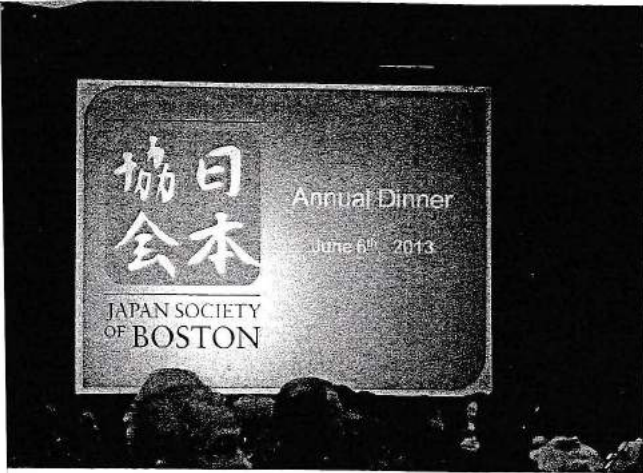
この Annual Dinner では、伊藤さんに加えて、民家建築の再生に尽力されている、瀧下嘉弘氏が Cultural Distinction Award を、Harvard University の名誉教授 Ezra F. Vogel 氏が Lifetime Achievement Award を、Brookline High School で日本・アジア文化を教えている Rachel Eio 氏が John E. Thayer III Award をそれぞれ受賞しています。そして、和太鼓の演奏もあり、大変賑やかな会でした。

The Japan Society of Boston という組織が遠く離れたアメリカの地に100年以上も活発に活動していることは、これまでの両国間の意義深い交流の賜物であると同時に、将来の両国の発展に益々貢献して行くと考えます。

そして、日本ボストン会も両国の関係の発展に、そして、日本のグローバルな発展に、少しでも寄与できることを願っています。

追記: Mr.Grilli が引退される最後の日(6月28日)に、関直彦氏と水野賀弥乃さんのお世話で、書状(印項参照)を添えて花束をボストン日本協会にお届けしました。

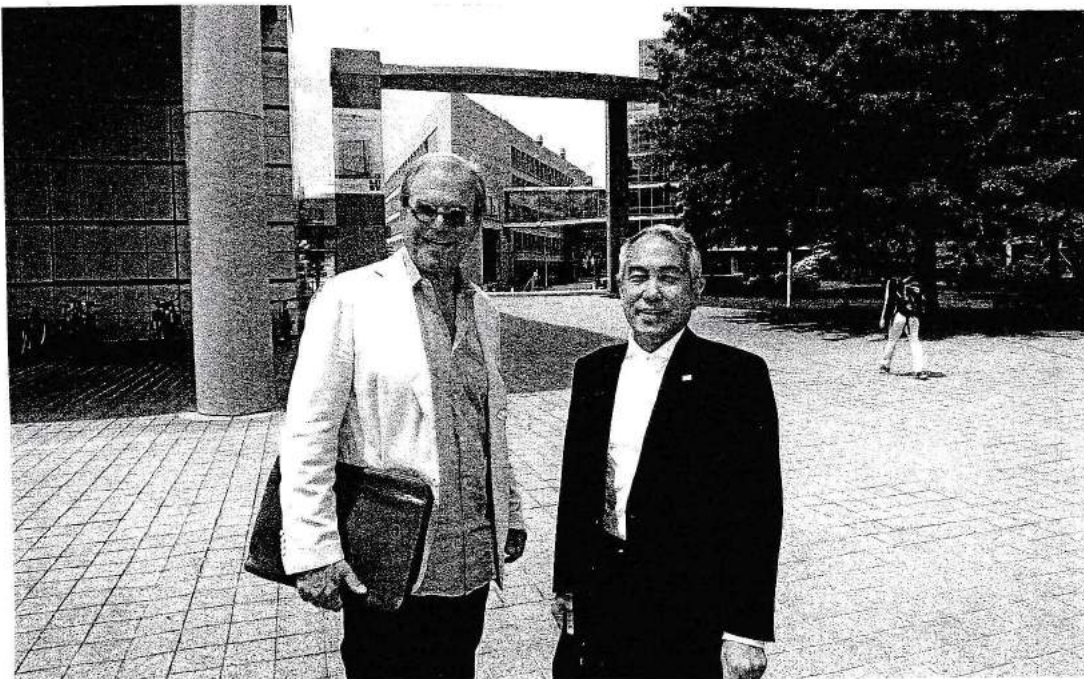
長島雅則会長 Japan Society of Boston, Annual Dinner 出席 写真



Mr. Peter M. Grilli、長島



伊藤 穰一氏 (Joi Ito)



MIT Media Lab.前にて、Prof. Negroponte 長島



# 日本ボストン会

The Boston Association of Japan

June 15, 2013

Mr. Peter M. Grilli  
President  
Japan Society of Boston

Dear Peter,

It was very nice for me to have had a chance to meet you at the Annual Dinner of the Japan Society of Boston held on June 6, which was substantially your "Sayonara Party."

It is a considerable loss not only for the Japan Society of Boston but also for the Boston Association of Japan as well as many people who have been involved or interested in the US-Japan relations that you step down as President of JSB as of June 30. But, I feel somewhat relieved to hear that you are still to remain active as a Board member while enjoying gardening with your wife.

On behalf of all the members of the Boston Association of Japan, I would like to express our sincere appreciation particularly for your great contributions that have been extended to the US-Japan relations since 2000 when you took the post of president of JSB. I think the highlight of your efforts was a variety of programs celebrating the centennial of JSB, which seems to have triggered a remarkable progress of cultural exchanges between both countries. It was really a result that you understand and love Japan, I think, which seems to have been fostered through your long experiences since five years old.

We wish to keep our personal friendship with you as we will have many opportunities to meet together again either in Japan or Boston in future. The General Meeting & Annual Party of BAJ is planned to be held on November 11, and if you have any plan to visit Japan around that time, we hope you will be able to join us. Other members of JSB are also very welcome, needless to say.

Finally, thank you very much again for your cooperation extended us including messages sent us for some events. I hope you enjoy your new life with some more free time.

Sincerely,



Masanori Nagashima  
President  
Boston Association of Japan

投稿

## 言葉と文化(Ⅲ)

英語と日本語…同じ言葉?

顧問 法眼 健作

言葉と人間性にかかわる三回目でも最後の論文である。私は人生のほとんどを米国人またはアングロ・サクソン系の人々とその文化、社会とともに過ごしてきた。わが国の近世から現在に至るまでの歴史をふり返ってみると、アングロ・サクソンとうまくやっている時代は、わが国は平和を保ち繁栄している。

その背景には政治・経済・安全保障上の思わく等があることは勿論であるが、私にはそれだけではない「人間としての根本にかかわる共通性」があるからと考える。表面的には、民主主義、市場原理経済、人権尊重であるが、それより更に内側にある「人間としての価値・理念の共通性」が日本人とアングロ・サクソン系の中にあると思われる。

具体的な例をあげれば世界の主要文明・国家において「嘘をついてもばれなければ嘘とならない」というカルチャーがある。他方「嘘をついてもばれなくても居心地悪くてハッピーになれない」というカルチャーもある。前者の方が世界全体から見ると圧倒的に多いだろう。後者は日本人とアングロ・サクソン系である。ジョージ・ワシントンの櫻の木の話やウォーターゲート事件のニクソン大統領辞任のケースである。

何故なのであろうか?一つにはアングロ・サクソンの本家であるイギリスは海に守られ外部からの侵略は極端な例にしぼるとノルマンディー公・ウィリアム(ヴァイキング)とヒトラーであろう。わが国においては蒙古とマッカーサーであろうか。だから英国人と日本人はともに性善説の人々であり、アメリカ人もその英国人の流れを受けついでいる。

要するに他国民から「本当にひどい目に合っただけ人間を信じる事が出来ない」ところまで日本人も英国人も追い込まれたことはない。だから例えば哲学をとってみても、英国の哲学は「何故風が吹くか」とか「何故岩は動かないのか」等の自然に関するものである。

他方、ヨーロッパ大陸のものは「何故人間は悪いことをするのか」とか「ならばそういう悪い存在である人間にどのように対応するか」等々もっぱら人間にかかわるものである。

東洋でも同じ。中国ではもっぱら人間にかかわるものであるのに対し、わが国の哲学・神道は自然に対する尊敬である。

なればこそ、日本人とアングロ・サクソン系は表面的な現実、つまり歴史、宗教、習慣等々の違いはあっても一緒にいて決して居心地が悪くないのでないか。

ご注目頂きたい。私は違いの中にわざと「言葉」を入れなかった。勿論、アングロ・サクソンの言葉、英語と日本語は言葉としては全く違ったものである。しかしこの二つの言語には大きな共通性がある。それは、日本語と英語にはほとんど全ての物、事例、現象、概念等々について、一つのことを二つの言葉で表現出来るという共通点がある。

簡単な例をあげると、英語では「家」はHOUSEとMANSIONの二つ、フランス語ではLa MAISON、ドイツ語ではHAUSで各一つ。手は英:HAND、MANUAL、仏:La MAIN、独:HAND。風、英:WIND、VENTILATION、仏:Le VENT、独:WIND。地面、英:GROUND、TERRAIN→TERRITORY、仏:Le TERRAIN、独:GRUND。抽象的、概念的なものでも「自由」→英:LIBERTY、FREEDOMの二つで表現出来るのに対し、仏:LIBERTE、独:FREIHEITの各々一つである。「素晴らしい!!」→英:WONDERFUL、MARVELOUSの二つで表現出来るのに対し、仏:MERVELLEUX、独:WUNDERBARの各一つ。

要するに英・米(アングロ・サクソン)は全く無意識に一つの物、概念等を二つの違った言葉で表現しているのである。

同じことが日本人についても言える。日本人は一つのことを大和語と漢語の両方で全く無意識に使い分けて表現している。「言葉を使ってコミュニケーションをとる」ことが人類が持つ他の動物と違って最も優れた特性である訳だが、英語と日本語とも最も豊かで自由な世界があるということは特筆に値すべきことと考える。言葉が人間の頭脳に及ぼす影響力は無限なものである。日本人とアングロ・サクソン系だけがこのような自由で豊かな言語生活を営んでおり、私がこのことが日本人がアングロ・サクソンと共に過ごすことに居心地の良さを覚えるゆえんであると考える。

振り返ると、わが国が英・米と良い関係を伴っている時期には日本は繁栄してきた。明治維新以後、ポーツマスでの日露戦争の処理、日英同盟、第一次世界大戦での対応等、わが国はアングロ・サクソンと協調して上手に身を処していたと思う。

それが1920年代-45年まで、ことあるごとにアングロ・サクソンと反目し、その結果が第二次大戦であった。そして今日である。

1945年以降のわが国の繁栄の一つの大きな背景は米との協調であるが、先に申したように共通の理念、人間性等に加え、人間が人間たるゆえんの言葉において、その根幹にこのような共通点があることが、日米が仲良く出来る大きな理由があると考えられる。



観桜会

目黒川サクラ並木 2013年3月31日(日)

今年の観桜会は目黒川サクラ並木を楽しみました。ここはいま、上野恩賜公園、千鳥ヶ淵につづき3番目にランクされる東京の名所になっています。

目黒川に沿って渋谷の大橋から目黒の目黒新橋あたりまでの約4キロにわたり、川の兩岸にサクラが咲いています。

サクラの開花が早まり、予定を1週間繰り上げ、3月31日、東横線の中目黒駅脇から目黒川を目黒新橋までの約2キロの散策となりました。午後4時半に中目黒駅の中央改札口付近に15人が集合、地元におられる鶴ご夫妻のご案内をいただき、花びらが流れる川沿いの道を川下に歩きました。

天候は雨雲が垂れ下がり、いつ雨に降られてもしかたがないお天気でしたが、途中、霧雨みたいなきももありましたが、目黒大橋まで三三五五歩き、満開のサクラを楽しみました。

JR 目黒駅にも近い目黒大橋からは、目黒通りを右に曲がり大鳥神社に向かって左側を歩き、鶴さんからご推薦をいただいた、イタリア料理店「サリータ」にて会食しました。

ここはご夫婦で経営する家庭的で可愛らしいお店で、参加者全員で満席という状態でした。初めに、イカ・海老・貝などが一杯入っている“海の幸のサラダ”、次に“イワシのマリネ”、“生ハム入りポッカチオ”と続き、とても美味しいです!! “あさりのリゾット”、“ナスのグラタン”、“新鮮野菜のパーニャカラダー”、“ミックスピザ”と次から次へと登場、しかも感激です。更に“ミラノ風カツ”、“山の幸スパゲティ”へと続き、すっきりしたハウスワイン(赤ワイン)がどんどん進み、「うーん、大大満足です!!」

鶴ご夫妻がご家族で長い間通われてお気に入りのお店とのこと、雰囲気も暖かく、とてもリラックスできて、お料理もワインも美味しく思わず“ガッツポーズ”です。

美しいサクラの観賞、美味しいお食事、まさしく『両手に花と団子』の楽しい“観桜会”でした。会話が弾み、午後7時半に解散しました。

広瀬 智子



参加者 15人 (撮影者、幹事の生田さん)



途中の橋の上から上流右手・清掃工場を望む



途中の橋の上から下流・雅叙園を望む



歴史と美術の会

## 三菱一号館美術館鑑賞会

2013年4月25日(木)

戦前に建てられた東京駅前の三菱グループの煉瓦街は、1990年代に始まった再開発によりその面目を一新、新丸の内として生まれ変わりました。中でも三菱一号館だけは、歴史を残す形で昔のままの姿で復元され、建物裏に、ロンドンの街中を思い起こす形のサークルと緑地が設けられ、三菱一号館美術館として甦り、東京駅周辺の新しいオアシスとなり、憩いの場所になりました。

現場は東京駅・丸の内南口から徒歩4・5分、新幹線の待ち時間を利用して立ち寄り易い。

ボストンから車で約3時間、マサチューセッツ州ウイリアムズタウンの広大な森の中にある Sterling and Francine Clark Art Institute の建物増築工事に伴い、(2011年から質の高い印象派を中心とした世界巡回展が企画され)、その所蔵品(ルノワール、コロ、ミレ、ピサロ、モネなどの絵画)の展覧会が「奇蹟のクラーク・コレクション」として、本年2月9日から5月26日まで三菱一号館美術館で開催されました。

当日、三菱一号館裏手の入館チケット売り場には午前10時半、日本ボストン会メンバー11人(篠崎氏、関夫人、藤盛夫妻、俣野夫妻、三好夫妻、小野田氏、酒井)が集合、鑑賞しました。

1950年代に建てられた白い大理石造りのクラーク美術館所蔵の73作品(うち、59作品は初来日)が展示された。中でも1875年から1900年のルノワール作品22点、それぞれの絵の前に人だかりが出来ていました。

1990年10月中旬に彼の地を訪れ、くれないの色、黄色に染まる美しい町、美しい美術館に目も心も奪われました。今回の展覧会は New England の風景をも思い起こさせてくれる充実したひと時でもありました。

絵を鑑賞した後、東京駅に近い BARSAC レストランでランチを楽しみ、ゆっくりした後、目の前の JP タワーKITTE (旧中央郵便局) 6階の庭園から新東京駅を眺めました。青葉、若葉の季節、楽しい時間があっという間に過ぎていきました。

酒井 典子



三菱一号館美術館



KITTE 6階屋上より東京駅を眺める



昼食時の記念写真

音楽の会

## 第8回ホーム・コンサート

去る6月2日、梅雨とは名ばかりの爽やかな陽気の中、関直彦様のお宅にて、開催されました。

今回はフルート(辻由記子さん)、ホルン(笠原慶昌さん)、ピアノ(大沼岳彦さん)、というとても珍しい組み合わせ。プログラムも、知っている作曲家の名前がほとんど見当たらず、どんな曲が聴けるのだろうと楽しみにしておりました。

フランツ・ドップラー作曲のトリオ「リギ山の想い出」で始まったプログラム前半は、ラウル・プーニョ作曲ホルン・ソロ、佐藤彰信作曲フルート・ソロ、シャルル・ケ克蘭のトリオと、19世紀ロマン派から近代にかけての曲名が並んでおり、関様のお宅の素敵なリビングで聴いていると、まるで貴族のサロンに迷い込んだような、優雅な錯覚をおこさせてくれました。

特に印象深かったのは、佐藤彰信氏のフルート・ソロ「Waterfall」。ご本人もプログラムノートに書いていらっしゃいましたが、尺八や竜笛のような響きが散りばめられ、いわゆる「オリエントの魅力」がふんだんに詰まったような感じで、とても興味深く聴かせて頂きました。

休憩を挟んだ後半は少し時代が進んで、20世紀以降の作品が3つ並びました。ウォルター・ピストン作曲のフルートとピアノのためのソナタ、オリヴィエ・メシアン作曲の「峡谷から星たちへ」よりホルン・ソロ「恒星の呼び声」、そして最後にエリック・イウエイゼン作曲のトリオ「バラード、パストラルとダンス」。

中でも面白かったのはオリヴィエ・メシアンの「恒星の呼び声」でした。この曲はメシアンが作曲した長大な管弦楽曲の中の第6曲目にあたる作品で、本来、ホルンが単体で演奏する楽章ですが、今回は、背後で沈黙したまま存在している管のオーケストラの存在感を表現するために、ピアノのペダルが利用されました。ピアニストの大沼さんが音は出さずに、ダンパーペダルを踏みっぱなしの状態を保ち、ホルンの音はそのピアノの内部に反響して二重三重の響きを作る、という実に興味深い演奏方法でした。(本当の宇宙空間では音は伝わらない筈というお声も後で伺いましたが)、後方の座席から立ち上って演奏を覗かれる方もいらしたほど、皆様興味深々のご様子でした。

### プロフィール

#### 辻 由記子(フルート)

福井県出身、桐朋学園大学短期大学部芸術科、専攻科を経てボストン大学音楽部へ留学、2007年修士課程修了。第24回福井県新人演奏会出演。第29回日本フルート協会デビューリサイタル出演。他各地コンサートに出演。現在、音楽教室講師。

#### 笠原 慶昌(ホルン)

上智大学外国語学部卒業、桐朋オーケストラ・アカデミー、米国ニューイングランド音楽院大学院ディプロマ修了。2004年から2005年末までヒンガム交響楽団(現名称:アトランティック交響楽団)ホルン奏者を務める他、ボストンとその近郊を中心にフリーランス奏者として活動。2006年帰国、現在、幅広い演奏活動を展開。

#### 大沼岳彦(ピアノ)

ピアニスト三上桂子氏(現桐朋学園音楽大学ピアノ科主任教授)に学ぶ。ニューヨークのManhattan School of Musicにて修士課程修了。奨学金を得てボストン大学博士課程へ進学。在学中に大学でクラスを受け持ち教壇の経験を積む。2008年博士号を取得。これまで、海外演奏ツアーを実施。2013年、キリンビバレッジ「午後の紅茶」CMに流れるラブソディーインブルーの演奏を務めた他、他社のCM録音に参加している。

(関 直彦記)

コンサート後の懇親会では、奥様のお心尽くしのご馳走が所狭しと並び、演奏家、そして会員の皆様と、楽しくお話しさせて頂く事ができました。この日はお天気も良く、お庭から眺めた夕焼けも素晴らしかったです。音楽もお料理も景色も、心ゆくまで堪能できる、このような素晴らしいコンサートを主催して下さった関様ご夫妻、出演者の皆さん、そしてボストン会の皆様に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

生田恵子記 (ピアニスト)



# Gauguin (1848-1903), van Gogh (1853-1890)

## Art Multimedia Show

### Carrières de Lumieres Les Balx de Provance

2012年12月20日、Valencia(Spain)を發ち、Provance (France) 北の入口の港町 Sete に着いたのは夜、翌日 Orange へ行き途中、車で1時間ぐらゐの所にある Carrières de Lumieres (カリエールの石切り場) へ行く。

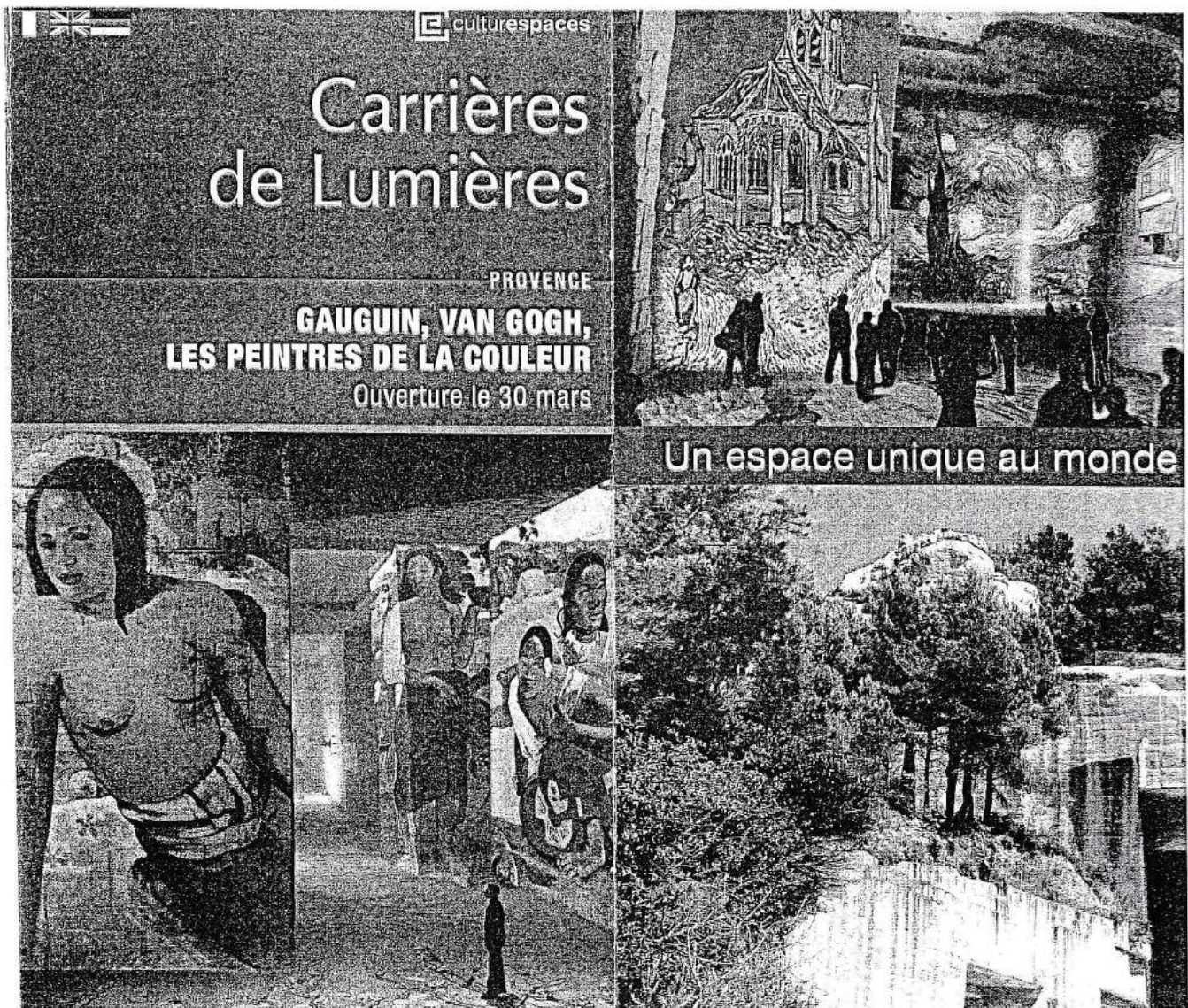
石切り場の採石場を音と映像で幻想的空間を演出した Carrières De Lumieres 展(2012年3月20日-2013年1月31日)が開かれていた。

Gauguin 1886年から1903年の作品、合

計400作品、そして van Gogh 1878年から1889年の作品、合計400作品が14mの上質な石灰岩の壁と柱、そして四角い石の床を音楽の調べと共に映し出される。

巨大な空間に Gauguin と Gogh 二人の炎の様に輝く作品と音楽が一つになり、見る者の内側にある未知の感覚を呼び戻してくれる様だった。ビジュアルアートと音楽の二つの表現によって生まれる“共感覚”を体感することができた。

美術の会 酒井 典子





## 2013年

### 第10回記念紅葉狩り

日本ボストン会の紅葉狩りは本年度で10回目になります。そこで、第1回に訪問した新宿御苑で開催することにしました。昨年の紅葉時期にも訪問しましたが大変美しかったです。

皆様奮ってご参加ください。催行日の前日まで受け付けますがレストラン予約(人数によっては貸切)のため決定次第ご連絡ください。

記

- \*日時 11月30日(土)(小雨決行)
- \*場所: 新宿御苑(第1回目と同じ場所)  
新宿門入口集合 15時30分集合  
(都営新宿線新宿三丁目駅、丸の内線新宿御苑駅より徒歩5分)
- \*会食場所: イタリアンレストラン ばさら  
(新宿御苑の近く)  
和食とイタリアンを融合させた  
『創作イタリアン料理』  
電話03-3356-3813  
〒160-0022  
新宿区新宿1-27-2 ルミエール御苑1F  
時間(予定): 17:30-19:30  
予算(予定): @5000円+アルコール代
- \*担当幹事: 水野賀弥乃、藤盛紀明・富美子  
連絡先

### ゴルフ秋季懇親会のお知らせ

日本ボストン会の秋季ゴルフ懇親会を下記の通り開催いたします。奮ってご参加下さい。

記

1. 開催日: 11月8日(金)午前8時22分  
第一組インコース スタート
2. 場所: 川崎国際生田緑地ゴルフ場
3. プレー代: 16,000円、チェックインの時に現金にてお支払下さい。(このゴルフ場はカードが使いません。)
4. 参加費: 4,000円、賞品およびプレー後のパーティ代。
5. 申込人数: 3組(12人)になった時点で打ち切ります。
6. 申込先: 山崎恒

## 伝統芸能の会

平成26年初春歌舞伎公演(国立劇場)観劇の会を下記の通り開催いたします。会員の皆様のお申込みをお待ち申し上げます。

記

- 初春歌舞伎公演: 平成26年1月19日(日)
  - 現地集合時間: 午前10時15分、ブリーフィングの後、昼食、観劇。尚、当日の公演終了後に、希望者には舞台見学ツアーがあります。
  - 辰岡万作=作『けいせい青陽集』より、通し狂言「三千両初春駒曳(さんぜんりょうはるのこまひき)」、尾上菊五郎(=監修・出演)、尾上松緑、尾上菊之助、中村時蔵 ほか出演。
  - 料金:
 

A席(団体割引料金)	8,280円	①
昼食(歌舞伎幕の内弁当)	1,500円	②
基本料金 ①+②	9,780円	
  - オプション料金(希望者)
 

プログラム @800円、(10名以上@720円)③	
イヤホンガイド@650円、(10名以上@600円)④	
  - 参加申込書
    - \*参加者の氏名(2人の場合は、夫々記入)
    - \*電話番号、メールアドレス。
    - \*プログラム希望の有無と数量。
    - \*イヤホン希望の有無と数量。
    - \*参加費用一人: 9,780円+ ③ +④  
二人: 19,560円+ ③ +④
    - \*合計金額=振込金額
- 計算例①: (opt無し) 9,780+0+0 = 9,780円  
 ②: (opt各2) 19,560+1440+1200=22,200円
- 申込先: 滝沢典之

参加費振込前に上記の参加申込をお願いします。

- 申込締切日(参加費振込完了日):

平成25年11月28日

- 参加費用振込先:

- 振込手数料が発生する場合は、送金者のご負担願います。前回同様、申込後のキャンセルはできかねますので、ご了承願います。

- 幹事: 吉野静子・滝沢典之



投稿

### モース・コレクション里帰り展覧会

9月14日～12月8日

於江戸東京博物館

特に大森貝塚を発見したことで知られているエドワード・シルベスター・モース。明治10年に来日して以来、彼は江戸時代の日本の優れた民俗文化が消えゆくのに大変心を痛めて、棄てられる運命にあった伝統的な日本の民具などを中心に大々的に収集しました。ボストンに在住の間に見られた方も多と思いますが、それらはセーラムのピーボディ・エッセックス博物館に保存され、一般に公開されています。それは日本の民俗文化のコレクションとして、世界最大のもので

その膨大なモース・コレクションの貴重な一部が、「明治のこころ」と題する里帰り展として現在、江戸東京博物館において公開されているのでご紹介します。この展覧会は、日本ボストン会のメンバーでもある、江戸東京博物館の副館長、小林淳一さんが中心となって、企画したものです。一見の価値あるイベントなので、是非見に行かれることをお勧めします。最近、江戸文化が見直されるようになってきましたが、開国前から続いていた江戸文化を、文字ではなく、実物を通して垣間見ることができます。

場所: 江戸東京博物館(両国)  
期間: 9月14日から12月8日まで  
休館日: 月曜日(但し、10月14日と11月4日は開館、10月15日と11月5日は振替休館)  
時間: 9:30AM~5:30PM  
観覧料: 一般¥1,300、大学生¥1,040  
高校生以下、65歳以上¥650

関直彦

### 音楽の会 来年の予定

来年の予定は未だ決まっていますが、5月頃にまたホームコンサートを開催したいと思います。但し未確認情報ですが、その頃にボストン交響楽団が訪日公演を予定しているとの話もあります。かつてボストン・ポップス・エスプラナード・オーケストラの訪日に際して、そのメンバーの有志による当会のための特別ミニコンサートを実現し、大変に好評を得ましたが、同様な演奏会がまたできたら良いな、と考えています。

音楽の会に何かご希望やご提案がありましたら、ご一報ください。 関直彦・尚子

投稿

### 「ボストン留学生会の歴史」

明治末から半世紀にわたりボストン地区で学んだ日本人学生が書き続けたノートを外務省関係者が持ち帰った。井口武夫顧問が企画してその内容を調べてきましたが、6月14日発行の日本経済新聞(株)の文化欄に取り上げられた。この記事を見たと言って留学生の御子孫の方などから好意的な反応が届いた。

同社の了解のもとに本会のホームページに上記の「記事」を転載したので目を通していただき、ご感想、ご批判などお知らせいただければ幸いです。

担当幹事 三好 彰

### Grilli 前JSB理事長来日の件

先日、Peter Grilli 前JSB 理事長から、10月に来日されて各地を訪問される旨お知らせを戴きました。東京では10月16日(水)晩に国際文化会館で講演(“Observing Japan”)をされます。

ご関心のある方は、直接、国際文化会館にお問い合わせください。(Tel: 03-3470-4611)

棚橋 征一

### Atsuko Toko Fish 夫人 米大統領より表彰

本年5月6日、社会的に顕著な貢献をした15名のAsian American & Pacific Islander (AAPI) womenの一人として、Fish 厚子さんが米大統領から表彰されました。

永年に亘り、日米における社会的な革新をもたらしたこと、特に女性のエンパワメントおよび両国間の相互理解の促進の面で多大な貢献をされたこと、また、2011.3.11の東日本大震災の発生後、犠牲者救援のためにJapanese Disaster Relief Fund-Boston を立ち上げて約百万ドルの寄付金を集め、現地で救援にあたる19の団体に24件のグラントを支給したこと等が評価されました。

今後益々のご活躍を願っております。

棚橋 征一

### 長島淑子さんのピアノ・リサイタル

長島淑子さんが渡辺千恵子さんとジョイント・リサイタルを11月3日(日)午後2時半より銀座 王子ホールにて開催されます。

お問い合わせ先: 武智音楽事務所

Tel 03-3371-1250



投稿

## 私にとってのボストン

佐藤 信雄

ボストンとの最初の出会いは今から33年前の1980年の夏になります。当時私は日本興業銀行(現みずほフィナンシャルグループ)に勤務し、銀行からの派遣生としてハーバード・ビジネス・スクール(HBS)のMBAプログラムに1980年から2年間留学を致しました。海外生活は高校時代に1年ほど父の仕事の関係で香港に住んだことがあるのみで、かつ米国は初めての経験でしたので、生活に慣れるのに当初戸惑う事ばかりだった記憶があります。

HBSでまず驚いた事はregistrationの日に渡された1週間分の15個のケースの束の大きさでした。その後予習が追い付かず、かつ成績の半分が授業でのケースディスカッションにおける発言でしたので、クラスで発言が出来ずチャールズ川の橋を肩を落として渡ってPeabody Terraceというハーバードのアパートに帰る日々が続きました。気分転換に家内と外に出るのは金曜日の夜と土曜日の午前中のみで、その夕方から勉強を始め翌週の授業での悲惨な状況を想像すると憂鬱な気分となったものです。そのような状況でしたので、留学中はボストンやケンブリッジをゆっくりと見たり、ボストンシンフォニーのコンサート等を楽しむ時間的・精神的余裕もなく、結果ボストンを好きになると言うこともなく、帰国いたしました。

縁が在り現職には2009年の8月から着任し、年に4回ボストンへ出張しておりますが、今は週末に時間がある時はHarvard Squareの周りを散歩して食事を楽しんだり、ボストンの市内に足を伸ばしたりと、留学時代とは違いゆったりとした時間を持つことが可能となっております。その際、ボストンやケンブリッジには緑が多くレンガ造りの古い美しい街並みが多く残っている事やニューヨークほど喧噪でなく落ち着いた味のある雰囲気がある事を感じたり、当時少しでも離れていたかったHBSのキャンパスが、建物と樹木との調和が取れた素晴らしく美しい空間を作っている事を再発見しております。

このような景観も雰囲気も食事も素晴らしいボストンで、時間を過ごされた皆様とご一緒できる縁を大変嬉しく思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 第76回幹事会記録

日時:2013年6月14日(金)午後6時半~9時  
場所:新宿サミットクラブ、21名出席。

- \*長島雅則会長挨拶:6月6日のJSBのAnnual Dinnerに出席、グリーリ理事長にお会いした旨の報告あり。(別項参照)。
- \*事務局報告:新入会員なし。
- \*HP:有料サーバーに移行する旨報告。(別項参照)
- \*美術と歴史の会:4月25日三菱1号館美術館にて「奇蹟のクラーク・コレクション」鑑賞。(別紙参照)。
- \*紅葉狩りの会:(別項参照)。
- \*お花見の会:3月31日目黒川サクラ鑑賞(別項参照)。
- \*音楽の会:6月2日開催、19世紀~20世紀の音楽をフルート、ホルン、ピアノで鑑賞(別項参照)。
- \*ゴルフの会:4月25日川崎国際ゴルフにて開催、優勝は伊藤英徳氏。
- \*会報発行:秋に発行する第42号までは従来通り紙媒体による発行とし、その後は電子版化することにし、幹事間で協議することにした。

(その他)

- \*三好彰幹事の日本人留学生の調査報告が6月14日付日本経済新聞文化欄で取り上げられた(別項参照)。
- \*JSBグリーリ理事長が6月末にて勇退されるのに合わせて、長島会長名にてお花を届けることにした。メッセージは幹事に依頼し、お花は水野幹事が手配する事にした。(別項参照)。

## 第77回幹事会記録

日時:2013年9月3日(火)午後6時半~9時  
場所:新宿サミットクラブ、23名出席。

- \*長島雅則会長挨拶:JSBグリーリ理事長にお花を届けた旨報告(別項参照)。
- \*佐藤信雄次期会長候補の挨拶。(別項参照)。
- \*事務局報告:新入会員、1家族。
- \*総会開催:2013年11月15日、別項参照。
- \*紅葉狩りの会:11月30日新宿御苑開催。(別項参照)。
- \*ゴルフの会:11月8日開催。(別項参照)。
- \*一繕乃会:ファミリーハウスに吉野静子さんと通っている旨水野幹事から報告。
- \*伝統芸能の会:次回1月19日(日)開催(別項参照)。
- \*ボストン情報:2012年、全米で櫻寄贈の100周年櫻祭りが盛会であった。ボストンでも櫻祭りを提案し、13,000名が参加し、盛会であった。そこで今年も開催を提案し、5月19日18,000名の参加を得て、盛会であった。ボストン市長からもお礼状を頂いた。
- \*会報制作:今回で紙媒体の制作を終了する事承認。(別項参照)。尚、連載された山口静一先生の「フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院」の合本制作は承認された。総会で希望者に有料頒布、(500円見当)。



## 「日本ボストン会のホームページ(HP)の引越し」

HP 担当幹事

吉田 博

日本ボストン会HPは、1993年に発足から10年目の2002年10月に開設されました。立ち上げたのは、初代経理担当幹事の清水建設(株)の佐藤文則さん(ボストン・オフィス在勤経験)でした。元NECの生田英機幹事のお世話で、サーバー(Biglobe)を利用させていただき、HPを掲載し、現在に至っております。

本年4月にNECからそのサーバーも20年経ち老朽化したので、10月末にはお役御免になるとの通知を受け、HPを引越せざるを得なくなりました。そこで、2009年末に急遽HP担当を引き継いだ2代目幹事の私が引越しを仰せつかりました。

HPの引越しについては、他の幹事とも相談し以下の方針にて実施計画を作成いたしました。

- 従来のHPのコンテンツを全て引き継ぎ、従来以上のサービスを提供する。
- 日本ボストン会の20年以上に亘る日米親善及び非営利活動と清廉・誠実なイメージを踏襲する。

このため引越し先の新サーバー選定において、無料サーバーは広告掲載がなければ必須となるため有料サーバーで、費用が安く使い勝手の良いサーバーを選定することになりました。

結果的には、HP当初からHPの作成・修正に使用していたプログラム「ホームページ・ビルダー」の発売元(当初はIBM社、現在はJUSTシステム社)の新サーバーに引越することとし本年6月の幹事会にて承認を頂きました。そして、新サーバーのドメイン名についても「www.j-boston.org」とすることに決まりました。

そしてHPの実際の移行については、3ヵ月間に実施しなければならず、難しいかなと思われましたがなんとか移行を完了でき、10月1日から完全引越しの見込みです。

- 6月末: 新サーバー仮立ち上げ。
- 7月/8月: 新サーバーと旧サーバーの並行運用。
- 9月: インターネット検索エンジン(GoogleやYahoo)での新サーバーの検索結果の見極め(日本ボストン会で検索できること)。及び旧サーバーの縮小運用。

今後共に日本ボストン会HPをより良いものとする所存ですので、引き続きご支援ご鞭撻をお願いいたします。

### 会報電子版化のお知らせ

時代の流れもあり、紙媒体での発行は今回の第42号をもって最終とし、次号からメール等での配信とする事に、9月3日の幹事会で決まりました。

具体的な配信方法は今後技術的な要素を検討して決めてゆく事になりますが、今後も紙媒体での配布をご希望の方は日本ボストン会事務局までご連絡ください。

また、日本ボストン会からのメールでのご案内が届いておられない方も併せ事務局までご連絡ください。

### 日本ボストン会 総会・懇親会のお知らせ (同封チラシ参照)

- 日時: 平成25年11月15日(金)午後6時開場、午後6時半開会  
場所: NEC三田ハウス芝クラブ (JR田町駅、都営地下鉄三田駅下車)  
港区芝5-21-7、TEL 03-5443-1400  
会費: 当日払い お一人 6,000円 / (同伴者 5,000円)  
事前送金 お一人 5,000円 / (同伴者 5,000円)  
送金方法:

申し込み先: 総会への出欠は、日本ボストン会事務局宛ハガキ(同封)を11月10日までに投函してお知らせ下さい。山口静一先生の「フェノロサ、ピグロと三井寺法明院」の合本希望者はハガキでお申込み下さい。当日渡し、(実費500円見当)。  
日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。「www.j-boston.org」